

2026 年 9 月 24 日

NTT ドコモビジネス株式会社

セキュアなフィジカル AI 活用を支える環境を「docomo business SIGN®」で実現 ～MEC と「GPUaaS」を直結し、1 GPU 単位から利用できるソブリン AI 環境を提供～

NTT ドコモビジネス株式会社(旧 NTT コミュニケーションズ株式会社、以下 NTT ドコモビジネス)は、セキュリティ機能を標準搭載した IoT 向けの NaaS(Network as a Service)である「docomo business SIGN®」※¹の「Advanced」メニューを強化し、IoT データの収集から AI 推論までを一体で行えるソブリン AI 環境※²の実現に向けた機能拡充を 2026 年 12 月に提供開始します。

モバイルネットワークに直結した MEC※³サーバー基盤と GPU クラウドサービス「GPUaaS※⁴」を直結することで、オンプレミスに依存しない新たなソブリン AI 環境の利用形態を実現します。また、お客さまは自社で GPU 設備を保有することなく、1GPU 単位から必要な計算リソースを利用できるため、初期投資を抑えながら柔軟にリソースを拡張できます。

これにより、映像 AI やロボット、自動運転などのフィジカル AI サービスの迅速な事業化を支援します。

1. 背景

労働人口の減少や熟練作業者の不足などを背景に、AI を活用した業務自動化や高度化へのニーズが拡大しています。国内 AI システム市場は、2025 年～2030 年に年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）28.1%で成長すると予測されており※⁵、製造業や物流業をはじめとする幅広い業界で AI 活用が加速しています。一方で、AI 活用の対象は個人情報に関わる映像や製造上の機密データなどへ広がっており、国内で管理された環境の中でデータを安全に収集・処理したいというニーズも高まっています。また、フィジカル AI の安全性確保のために、十分に管理・統制できる AI 環境を用いることの重要性も高まっています。こうした中で、データ主権性と安全性が確保できる、いわゆるソブリン AI 環境の重要性が増しています。しかし、こうした環境を自社で構築するためには、高額な GPU 設備の購入に加え、サーバーやネットワークの設計・運用が必要となるため、初期投資や運用負荷が課題となっています。

NTT ドコモビジネスは、こうした課題に対応するため、「docomo business SIGN®」の「Advanced」メニュー※⁶を強化し、IoT データの収集から AI による分析・推論までを支えるソブリン AI 環境を実現します。

2. ソブリン AI 環境の実現に向けた機能拡充内容

主な機能拡充内容は、以下のとおりです。

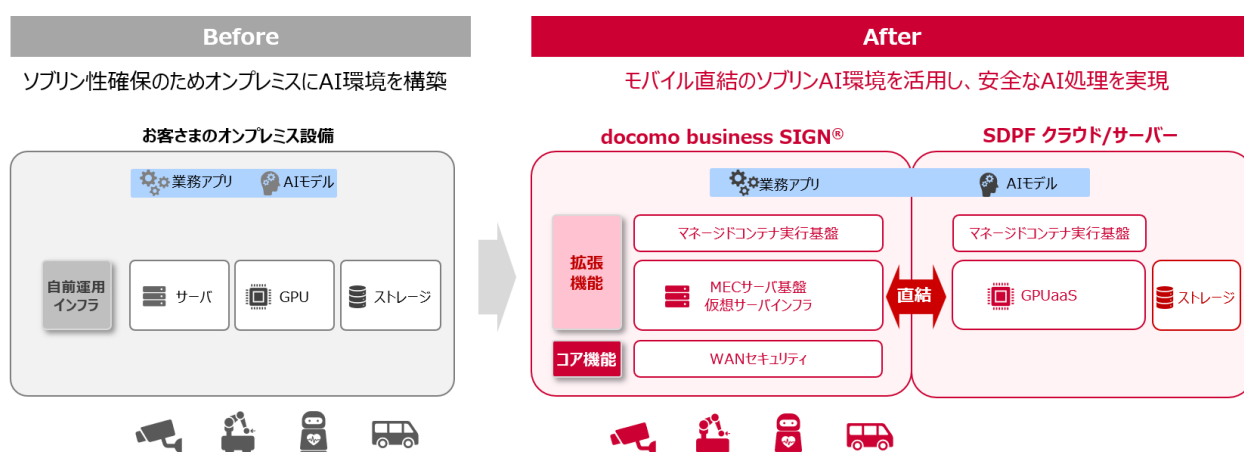
(1) 「docomo business SIGN®」の MEC サーバー基盤と GPUaaS の直結モデルを提供

「docomo business SIGN®」のモバイルネットワークに直結した MEC サーバー基盤と「GPUaaS」を直結し、一体的に提供します。お客さまは「docomo business SIGN®」のご契約内で必要な GPU リソースを利用でき、データ収集・蓄積から AI 推論までをソブリン AI 環境上で一体的に実行できるようになります。ソブリンな MEC 環境と GPUaaS を組み合わせ、サービスメニューとして提供するのは国内企業では初^{※7}となります。従来ソブリン AI 環境の実現にはオンプレミス設備の構築が前提でしたが、これにより必要な機能をサービス型で利用できるようになり、オンプレミスに依存しない新たなソブリン AI 環境の利用形態を実現します。

(2) AI アプリケーションの効率的な展開・運用を支えるマネージドコンテナ実行基盤

MEC サーバー基盤および「GPUaaS」上でマネージドコンテナ実行基盤を 2027 年度に提供予定です。これにより、開発した AI アプリケーションを、環境差異を意識することなく迅速に MEC 環境へ展開できるようになります。さらに、利用状況に応じたスケールアウトや負荷分散を自動化することで、インフラ運用の負荷を大幅に軽減します。お客さまはインフラ管理を意識することなく、AI アプリケーションの開発・運用に集中できます。

これらの機能拡充により、お客さまは AI サービスの事業化に必要なインフラの構築・運用負荷を軽減し、安全かつ柔軟に AI 活用を推進できるようになります。個人情報に関わる映像データや製造上の機密データをソブリン AI 環境で安全性に配慮して活用できるほか、自社で GPU を保有することなく 1GPU 単位から利用できるため、初期投資を抑えながら事業の成長に応じてオンデマンドでリソースを拡張できます。さらに、マネージドコンテナ実行基盤により、AI アプリケーションの実行環境構築や運用管理の負荷を軽減できます。これらにより、お客さまの AI サービスの迅速な開発・事業展開を支援します。



<イメージ図>

3. 本機能拡充を活用したソリューション展開

本機能は、モビリティ分野で取得される映像や走行データなどを安全に収集・処理し、AI による

分析・推論に活用できる特長を生かし、以下のソリューションへの活用・適用を予定しています。

(1)「NTT モビリティ 運行アシスト」における AI 機能での実証

NTT モビリティが提供する「NTT モビリティ 運行アシスト」では、自動運転サービスにおける運行管理の高度化に向けて、車内外の安全性確保などの一部を代替する AI 機能の提供を予定しています。これらの機能の活用が見込まれる交通事業者等の車両運行においては、解析対象映像に映り込む乗客などの個人情報の保護が求められるため、データの学習利用や処理地域を適切に制御できる AI 環境を活用した AI 機能の実用性や運用性を検証します。本実証を通じて、効果的に映像解析および業務へのフィードバックを行う映像 AI の実運用モデルを確立し、公共交通分野における AI 活用の拡大と、自動運転サービスの安全な社会実装をめざします。(実証時期：2026 年度秋予定)

(2)「docomo business SIGN®」のデータ活用基盤におけるソブリン AI 環境適用モデルの拡大

データ活用基盤のラインアップの一つである「通信安定化ソリューション/intdash」※⁸ は、モビリティ分野における自動運転やロボットの遠隔制御・監視に向け、MEC 上に協調型インフラ基盤やリアルタイムデータ収集基盤を配備し、安定した通信品質によるリアルタイムかつ欠損のないデータ連携を実現するソリューションです。自動運転車やロボットの運用では、各種の取得データの AI 処理にもとづく高度な制御や分析が期待されますが、その一方で、AI の誤動作が物理的な事故や設備損傷につながる危険性があります。これを回避するためには、不正や攻撃への耐性を備えたソブリン AI 環境を用い、安全性を確保することが重要となります。そこで、本機能拡充を通じ、「通信安定化ソリューション/intdash」をはじめとするデータ活用基盤のソブリン AI 基盤の適用を進め、フィジカル AI 分野におけるユースケース拡大を推進します。(展開時期：2026 年度第 3 四半期予定)

4. 提供開始予定日

「docomo business SIGN®」 MEC サーバー基盤と GPUaaS の直結モデルを提供：2026 年 12 月
マネージドコンテナ実行基盤：2027 年度（検討中）

5. 利用料金

NTT ドコモビジネス営業担当までお問い合わせください

6. お申し込み方法

NTT ドコモビジネス営業担当までお問い合わせください

7. 今後の展開

NTT ドコモビジネスは、AI 時代に最適な次世代 ICT プラットフォーム「AI-Centric ICT プラットフォ

ーム^{®※9}」構想のもと、さまざまな分野で本機能の適用する領域を拡大し、フィジカル AI の迅速な事業化を支援していきます。また、当社の映像 AI プラットフォームサービスである「docomo business SIGN[®] VPaaS」にソブリン AI 環境を適用することで、秘匿性の高い映像データの取扱いに適した映像蓄積・解析サービスの提供を予定しています。

8. NTT docomo Business Forum'26 出展情報

2026 年 10 月 8 日(木)、9 日(金)に開催する「NTT docomo Business Forum'26」にて、本サービスを紹介予定です。詳細は、公式 Web サイトの展示情報よりご確認ください。

公式 Web サイト：[NTT docomo Business Forum'26](https://www.ntt.com/about-us/nttdocomobusiness.html)

■展示名：現場から生まれるデータを、AI で価値に変える

■展示番号：IT-01

*会場：[ザ・プリンス パークタワー東京 B2 フロア](#)

*日時：2026 年 10 月 8 日(木)、9 日(金) 9:30～17:30

*参加方法：完全招待制

*参加費用：無料

「NTT コミュニケーションズ株式会社」は 2025 年 7 月 1 日に社名を「NTT ドコモビジネス株式会社」に変更しました。私たちは、企業と地域が持続的に成長できる自律・分散・協調型社会を支える「産業・地域 DX のプラットフォーム」として、新たな価値を生み出し、豊かな社会の実現をめざします。

つながる。驚きを。幸せを。



<https://www.ntt.com/about-us/nttdocomobusiness.html>

※1：「docomo business SIGN[®]」とは、セキュリティ機能を標準搭載した IoT 向けサービスです。

[セキュリティ機能を標準搭載した新たな IoT サービス「docomo business SIGN」の提供を開始](#)

※2：ソブリン AI とは、データを国内で保管・処理するなど、データ主権に配慮しながら AI を活用する考え方です。

※3：MEC とは、「Multi-access Edge Computing(マルチアクセス・エッジ・コンピューティング)」の略称です。従来のクラウドサービスとは異なり、端末に近い場所にサーバーを設置して通信の遅延を低減する「エッジコンピューティング」の一種です。特にモバイル端末や IoT 機器に特化した技術として開発されました。

※4：GPUaaS とは、NTT ドコモビジネスが 2026 年 9 月 17 日に発表した、高性能な GPU リソースと AI 開発環境を統合した GPU クラウドサービスです。

[NTT ドコモビジネス、1GPU から利用可能な AI 開発基盤「GPUaaS」を提供開始](#)

※5：[出典元 IDC Market Forecast：国内 AI 市場予測、2026 年～2030 年、doc#JPJ53498426, June 2026](#)

※6：「docomo business SIGN[®]」の Advanced メニューとは docomo business SIGN[®]が提供する回線アクセスメニューの一つで、5G 回線による大容量通信に対応したメニューです。

※7：当社調査による(2026年9月時点)

※8：「通信安定化ソリューション/intdash」とは、データ連携プラットフォーム「intdash」と通信品質の最適化技術を組み合わせ、映像やセンサーデータなどの大容量データを安定的に伝送するソリューションです。

※9：AI-Centric ICT プラットフォーム[®]とは、企業がAIを活用して、生産性の抜本的改善、競争力強化やビジネスモデル変革を進めるAI時代に最適な次世代ICTプラットフォームのことです。